

めざせ!!子ども森林インストラクター in 埼玉③

「ユガテの森で間伐体験と間伐材を使ったコースターづくり」

今回新型コロナウイルス感染者の急増の影響もあってか、直前に 5 名のキャンセルがあり、子ども 8 名、大人 3 名 (+3 才児)、スタッフ 5 名、木楽会スタッフ 3 名、計 20 名での実施となった。

午前 9 時 20 分に東吾野駅に集合し、受付で健康チェックをした。順次、事前アンケートを記入し、全員揃ったところで、佐藤リーダーからあいさつと行程の説明、小林サブリーダーから注意事項の説明、関谷がアイスブレイク、準備運動を行った。今回は飯能日高ケーブルテレビの取材も入ることとなった。なんと今回の参加者は全員女子。“林業女子をめざそう!!”を合言葉に出発だ。道中はたくさん実のなった柿の木や柚子の木など里山風景を楽しみながら歩いた。道沿いにはホタルの生息する清流も流れており小林サブリーダーがホタルの住処やゲンジボタル・ヘイケボタルの違いなど写真を見せながら説明。その後山道を登り約 1 時間かけてユガテの森へ。途中西川材についての解説も。山道にはヤブムラサキや真っ赤なフユイチゴの実がたくさんっており、子どもたちは夢中になって採って食べていた。



ユガテの森に到着。はじめに木楽会の方から、間伐の意味についてお話していただいた。その後、木のロープ掛けの練習、間伐での木の切り方のレクチャーを受けた。初めてのロープ掛けだったが、結構上手にできてびっくり。ヘルメットをかぶり、腰にはのこぎりを下げて林業女子の出来上がり。



さていざ間伐体験へ。急傾斜の森の中での間伐となり、足場の確保も大変な状況だった。3 グループに分かれ、グループごとに木にロープを掛け他の木に固定した後、木の受け口、追い口を切る。細い木に見えても、のこぎりで受け口や追い口を切るのは時間もかかり結構大変だったが、みんなで協力して粘り強く取り組んでいた。急斜面で木を切る姿はまさに“林業女子”そのものだった。いよいよロープをみんなで引っ張る時が来た。木が徐々に傾き、ボタン！と倒れる様は大迫力だ。その後、木楽会の方のプロの枝打ちやチェーンソーでの間伐の実演を見せていただいた。



昼食時には焼きたての焼き芋のご褒美も。

午後は切った木を作業場まで運び込み、その木をのこぎりで輪切りにした。切った木は紙やすりをかけ思い思いに文字や絵を描きこんだ。



木楽会の方からは、焼き印入りの素敵なヒノキや桜、竹の輪切りのおみやげをいただいた。

自分で作ったものと一緒にリュックに詰め山道を下り、14:30 東吾野駅で解散した。

実際に森の中に生えている木を自分たちで切るということは、子どもたちにとってはかなりインパクトのある活動であったと思う。ロープをみんなで引っ張って木が倒れていく様子は迫力がある。子どもたちからは、「切った木からいい香りがした」、「切った木の切り口が濡れていた」、「切った木の年輪を数えたら 20 本ぐらいあった」などの言葉が聞かれ、体験したからこそ感じたり、発見したことがたくさんあったようだ。午後木を切った際にも、木を切っている子の木を他の子どもたちが押さえてあげるなど、自然に子ども同士が協力し合う場面が見られた。

今回このような企画ができたのも木楽会の協力のおかげである。コロナ渦のなかで外出が抑制された子どもたちにとって、貴重な自然体験の場となった。

今後は埼玉会の中でも子ども対象のイベント実施について検討しても良いのではと思う。

(文責 関谷 由紀子)



林業女子の皆さん。頑張りました！